

氏名	嶋田 大雅
学位の種類	修士（鍼灸学）
学位記番号	鍼修第490号
学位授与の日付	令和6年3月12日
学位授与の要件	大学院規則第30条および学位規程第4条該当
学位論文題目	鍼灸師養成学校における痛み教育の現状と課題
指導教員	伊藤 和憲

学位論文の要旨

【目的】

日本では、慢性疼痛患者は2000万人以上と推察され、経済的な損失は2兆円を超えるとの報告もあり、重大な問題となっている。そのため、痛みの診療体制の変更や人材育成の観点から、痛み教育の整備が医学部を中心に進められている。一方、鍼灸院に来院する患者の多くは慢性疼痛を有しているとの報告もあることから、鍼灸師養成学校における痛み教育の整備も必要不可欠となる。しかしながら、痛み教育の必要性、痛みに関する教育の時間や内容について調査した報告はない。そこで今回、鍼灸師養成学校での痛み教育の現状を把握するとともに教育現場における課題を探ることとした。

【方法】

アンケートは回答者の基本情報、痛み教育の概要、実技・臨床実習での痛み教育の状況、痛み教育に関わる書籍の影響や認知度を問う合計36問からなり、選択回答で構成し、全国の鍼灸師養成施設92校の学科長相当に、アンケートを書面もしくはGoogleフォームを活用した無記名式で実施した。

【結果】

アンケート回収率は56.5%で、単発的な痛み教育の実施状況は、教育行政が指定している程度が75.0%と最も多かったが、系統的痛み教育の実施状況は「どちらとも言えない」「あまり実施できていない」を合わせると75.0%と十分な状況ではなかった。また、実技や実習においては治効機序に基づいた指導が行えている学校は20%と少なく、系統的な痛み教育が行えていない状況であった。

【考察】

アンケート結果からは、痛み教育の必要性は感じているものの、系統的な痛み教育は不十分な状況であった。その対策としては、新しい教育資材の作成、認定規則の単位数・時間数の増加、国家試験出題基準変更などに加えて、他の医療従事者養成校で作成されているコアカリキュラムを鍼灸師養成校でも作成することで痛み教育指針を示すなど、多方面からのアプローチが必要であると考えられた。

【結語】

医学部を中心に医療従事者養成校で進められている系統的な痛み教育は、鍼灸師養成校では十分な状況ではなかったが、今後、多方面からアプローチすることで、痛み治療を行える鍼灸師を育成することが望まれる。